

10.3.6 パネルダイアグラムの推定処理

図-10.3.33 パネルダイアグラムの推定処理ページ

(1) 主な機能

- ・ サーバクライアント方式を採用しているため、利用者のコンピュータに処理用アプリをインストールする必要が無い。すなわち、処理はサーバ内のOCU-Geomodeler エンジンが行うので、利用者は必要なデータファイルをサーバに送信すれば良い。
- ・ 利用者が送信したデータファイルは、サーバ内ではランダムなファイル名に自動変換されて保管されるが、1時間すると自動的に消去されるようになっている。
- ・ 出力のデータ形式は、「PNG」形式になっているため、汎用のビューアで表示することができる。

(2) 操作方法

- ・ 論理モデルファイルの送信：サーフェスモデルの作成処理に同じ。
- ・ 地層境界面ファイル名一覧ファイルの送信：サーフェスモデルの作成処理に同じ。
- ・ 地層境界面データファイルの送信：サーフェスモデルの作成処理に同じ。
- ・ カラーテーブルファイルの送信：「カラーテーブル・・・」右の[参照]ボタンをクリックして、「10.3.8 パラメータ作成処理」で作成したカラーテーブルデータファイルを指定する(図-10.3.34 参照)。本例では「color_tbl.txt」。

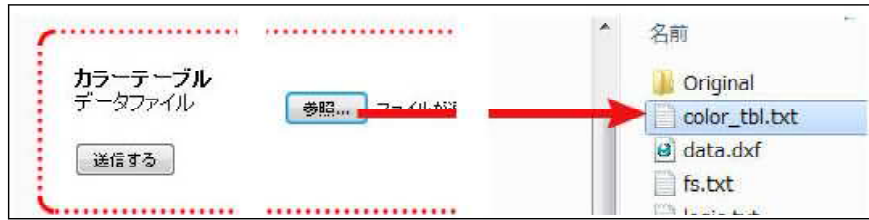


図-10.3.34 カラーテーブルデータファイル群の送信(例)

- ・ 処理パラメータの設定と処理：パネルダイアグラムを作成するために必要なパラメータを設定する。出力は「PNG」であって、横と縦のサイズをそれぞれpixelで指定する必要がある。初期値として1000×400が設定されているが、変更可能である。パネルの最小標高値と最大標高値がそれぞれ10m単位で設定されているが、変更可能である。パネルの始点と終点の各位置を指定する。範囲指定になっているので、留意されたい。地層境界線を「描画するか/しないか」とVRMLファイルを「作成するか/しないか」のチェックをした後、[生成]ボタンをクリックする。
- ・ 処理結果のダウンロード：図-10.3.36 のように、パネルと「ダウンロードリンク」が表示されたら、イメージのダウンロードが可能である。
- ・ 再処理：パネルが表示された後では、図-10.3.36 の画面でパラメータを変更しての再処理とダウンロードが何回でも可能である。

パラメータ	
断面画像サイズ幅	1000 px
断面=座標最小値	-40 m
断面始点x座標	5310m <= 5310 m < 5430m
断面終点x座標	5310m < 5430 m <= 5430m
境界線有無	<input type="checkbox"/> チェックで境界線描画
VRMLファイル作成	<input type="checkbox"/> チェックでVRMLファイル作成
<input type="button" value="生成する"/>	

断面画像サイズ高さ	
断面=座標最大値	400 px
断面始点y座標	10 m
断面終点y座標	62070m <= 62070 m < 62170m
	62070m < 62170 m <= 62170m

図-10.3.35 パラメータの設定(例)

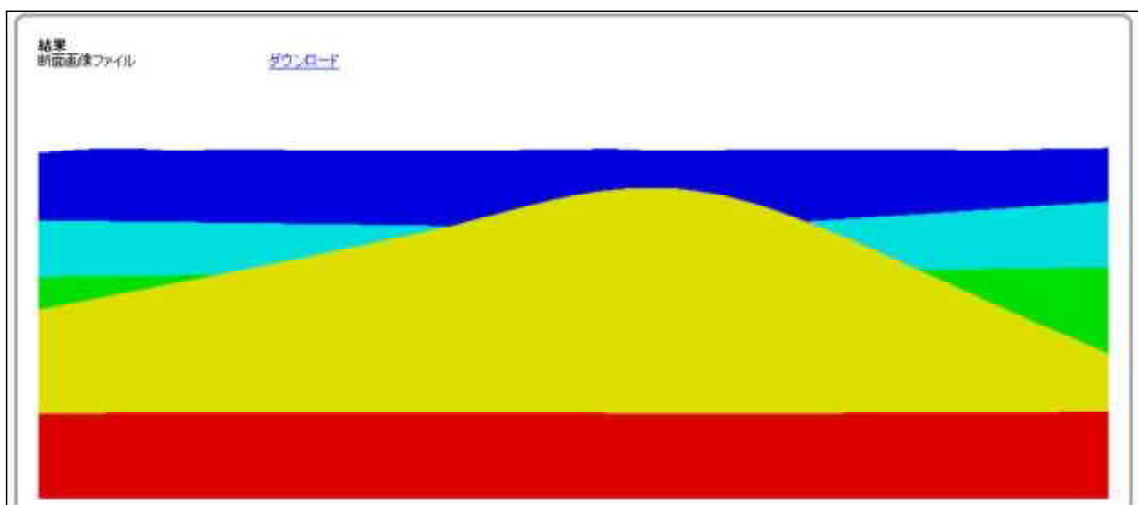


図-10.3.36 パネルダイアグラムの推定結果(例)